

寸言

日機装株式会社
航空宇宙事業本部長
井上 烈



「カスケード」専門から航空機部品の総合メーカーへ

日機装は1983年に世界に先駆けて民間航空機向けジェットエンジンの逆噴射装置用部品「カスケード」の「炭素繊維強化プラスチック（CFRP）」での製品化に成功。以来、日機装製のカスケードは世界シェア90%超まで成長しました。

近年の民間航空機の全面的CFRP化の流れに伴って、日機装はカスケード製造の経験と実績をもとに、さまざまなCFRP製部品の製造を手掛けるようになりました。

今後、複雑形状品を成形する独自の技術やQCD（品質・価格・納期）対応力をさらに強化し、CFRP製航空機部品の更なる事業の発展を目指していきます。

静岡の工場でカスケードの開発・製造を中心に事業を行ってきた航空宇宙事業本部は、その事業領域を広げるため、2008（平成20）年、ベトナム ハノイ市郊外に生産拠点としての完全子会社 日機装ベトナム（Nikkiso Vietnam, Inc. 略 NVI）を設立しました。航空宇宙事業本部にとって静岡以外で初めてとなるこの製造拠点は、為替リスクの回避はもとより、カスケード以外の航空機用部品の受注・製造のチャンスを拡大し、バランスのとれた成長を目指すためのものです。カスケードの開発・製造においては世界に誇れる当社も、カスケード以外の製品についての経験はほとんどありませんでした。航空機業界の設計・製造の標準とは何か、どのような製品がCFRP化されているのか、日機装ベトナムの設立はまさにカスケード一色の我々に技術、製法、

仕様など広く航空業界全体に目を向かせるきっかけとなりました。日機装ベトナムでは、顧客により設計された製品を競争力のある価格で製造することに主眼をおいています。新たな製品の受注に伴い、設備認定、工程認定、初回製品認定等に対応し、種々の製品に触れながら製造方法を学ぶチャンスを得たことで、世界標準を身に付けることができるようになりました。

2014（平成26）年4月に開所した金沢工場を加え、現在は国内2カ所、海外1カ所の生産拠点を構えています。また、今年（2016年）9月からは東村山の新工場がスタートします。

CFRP製航空機部品の製造は「熟練」、「ノウハウ」、「コツ」が必要な作業が沢山あり、製造業が本気で頑張れる環境があります。日機装は現場力を大切に、挑戦と改善を継続的に進めることで、会社自体の体力をいつも高いレベルで維持しています。

自社で切り開いてきた航空機向けCFRP製部品の分野、これまでの30年以上の経験を活かし、これからも品質・コスト・納期で顧客の信頼を得ていくことが我々の目標です。

規模からすればまだまだ小さな当社航空宇宙事業ですが、当社への期待を大きく感じています。

近い将来、航空機部品の総合メーカーとして、世界に認識されるような会社となれるように日々努力していきますので、皆様のご指導、ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。